

全校生徒教員が一丸となって地域貢献をしようと、今年も5月15日(休)町内3か所で、中里高校生徒と教員が奉仕活動を行いました。

1年生20人と2年生は20人は、町運動公園の陸上競技場で緑地にたまったゴミや、トラック脇の側溝にたまった落ち葉や小枝などの片づけを担当。強風に苦戦しながらもそれぞれ協力しながら作業をしました。

また、2年生のうち7人は、同校近くの内潟療護園の畑において、職員らと一緒にヒマワリの種まきの作業な



協力して落ち葉集め



心を入れて拭き掃除

どを体験しました。

3年生37人は、特別養護老人ホーム静和園で、施設の窓や車いすなど介護用品の拭き掃除で奉仕しました。作業を終えて生徒たちは「利用者が気持ちよく使えるように気持ちを込めて拭いた」と話していました。また、施設担当によると「今日は、強風のため屋外での散歩ができずに残念だが、私たちができない部分も掃除してくれて園内がきれいになった。利用者も喜んでいると思う」と高校生の奉仕活動に感謝していました。

## 馬ロボットづくり

### 小泊小年少女発明クラブ開講

小泊小年少女発明クラブが、4月26日(土)日本海漁火センターで開講式を行いました。今年は4年生4人が新たに仲間に加わり、全15人でクラブの活動がスタートしました。開講式では、沼田会長が「今年のテーマは“科学を知る”。学校では経験できないこともあります。先輩や講師たちのアドバイスを聞き、1年間がんばろう」と挨拶しました。

今年1回目の講座は、楽しい工作「1番の馬ロボットは誰だ」をテーマに、中里小学校教諭の相澤専任指導員が中心となって馬ロボットを作りました。

このロボットのスピードは、潤滑剤をうまく使うことがコツだそうです。子どもたちは、できあがったロボットを持ち寄り、全員でレースを行いました。結果は、先輩たちを退けて、新人の久保田希空くん(小泊小4年)が見事優勝しました。

同クラブでは月1回ペースで講座を開催し、秋からは2月に行われる青森県ジュニアロボットコンテストに向けて活動していきます。



馬ロボットレース



ニッパを使っでの作業

